

1. 媒体作成条件

項番	項目	内 容					
1	作成単位	同一料金月、同一支払期限でお客さま単位（会社コード単位）					
2	フォーマット形式	3.5インチFD				CD-R	MO
		2HD		2DD			
		1.25MB	1.44MB	640KB	720KB	650MB	128MB
3	標準最大出力件数 （圧縮希望時）	800レコード [*] (10,000)	1,000レコード [*] (11,100)	500レコード [*] (6,000)	600レコード [*] (8,000)	—	—
4	使用コード	JIS 漢字コード：シフトJIS					
5	レコード長	可変長（復帰改行コードが追加されます）					
6	ファイル形式	テキスト形式・項目名付CSV （1枚に収容しきれない場合は、同一ファイル名で複数枚作成します）					

注：項目名付CSV形式とは、レコードの先頭に項目名のみ項目名レコードを編集し、その後ろにデータレコードを編集する形式です。レコードの編集形式は以下のとおりとなっています。

- (1) 項目と項目の間をカンマ(,)で区切ります。
- (2) 1レコードの最終項目編集後、復帰改行(CRLF)を付加します。
- (3) 数値項目(件数・金額等)以外の場合は、そのデータをダブルクォート(“)で囲みます。
(例: "ABCD")
- (4) 数値項目(件数・金額)以外の場合で、データが省略されている場合は半角のスペースを編集し、ダブルクォートで囲みます。(例: " ")
- (5) 数値項目の場合は、有効数字のみ編集します。
※有効数字の編集に伴い、仕様書上の桁数と異なる場合があります。
- (6) 数値項目の場合で、データが省略されている場合は、半角のゼロのみ編集します。
(例: ..., 0, ...)
- (7) 標準最大出力件数は、記録媒体への収容方法により変動します。

<圧縮について>

お客さま提供データの圧縮希望時は、フリーソフトウェアの「高圧圧縮書庫管理プログラムLHA」を使用し、自己解凍形式(プログラム形式)で圧縮します。

圧縮したデータの解凍手順

- ① パソコンのハードディスクにコピーする。
- ② ファイルを実行する。

以上で圧縮したデータが自動的に解凍されます。

2. ファイル仕様

(1) 作成するファイル

ファイル名称	ファイル名
管理ファイル	D〇〇〇〇〇〇01.CSV
電話番号別内訳ファイル	D〇〇〇〇〇〇11.CSV
請求書作成番号合計ファイル	D〇〇〇〇〇〇51.CSV
会社合計ファイル	D〇〇〇〇〇〇91.CSV

注1：記録媒体2枚以上にまたがるファイルは、番号別内訳ファイルのみです。

注2：作成するファイル名の構成

D 〇〇〇〇〇〇 ×× . CSV
 *1 *2 *3 *4

- *1 「D」：電話番号別明細内訳書の表示
- *2 弊社が付与するお客さま識別コード（数字5桁）
- *3 ××：データ種類（圧縮の場合は記録媒体作成通番01～99）
- *4 CSV：ファイル拡張子（圧縮の場合は「exe」）

- ・圧縮の場合は、××に記録媒体作成通番01～99、ファイル拡張子「exe」のファイルを作成しますが、自動解凍後に上記のとおりファイルになります。
- ・圧縮ファイルが複数枚となった場合に同じフォルダ内で解凍すると、電話番号別内訳ファイルは1枚目からN枚目が全て同じファイル名で解凍されますので、後から解凍したファイルで上書きされます。複数枚になった場合は、フォルダを変えて解凍して下さい。

(2) 収容方法

① 1枚目

管理ファイル、請求書作成番号ファイル、会社合計ファイルを収容してから、電話番号別内訳ファイルを収容件数が、最大出力件数（記録媒体のフォーマット形式毎に定めた、記録媒体に収容可能な最大件数）になるまで収容します。

② 2枚目以降

1枚目に収容しきれなかった場合、残りの電話番号別内訳ファイルを2枚目以降の記録媒体に順次収容します。最大99枚まで収容可能です。

※項目名レコードについては、作成しません。

3. ファイル構成

●管理ファイル

--

●電話番号別内訳ファイル（回線番号別の内訳レコードで構成）

電話番号別内訳 レコード 1番目	電話番号別内訳 レコード2 1番目	~	電話番号別内訳 レコード2 N番目	電話番号別内訳 レコード 1番目	電話番号別内訳 レコード2 1番目	~	電話番号別内訳 レコード2 N番目	~	電話番号別内訳 レコード 1番目	電話番号別内訳 レコード2 1番目	~	電話番号別内訳 レコード2 N番目
電話番号 1 番目			電話番号 2 番目				電話番号 N 番目					



1. 同一電番の情報が、「電話番号別内訳レコード」に収まらない時、オーバー分を「電話番号別内訳レコード2」として格納する。
2. 又、「電話番号別内訳レコード2」は複数レコード存在する場合があります、「電話番号別内訳レコード」から「レコードNO」をシーケンスで付与する。
3. 請求書作成単位合計レコードも上記と同様の構成となる。

●請求書作成番号合計ファイル（請求書作成番号別の内訳レコードで構成）

請求書作成番号 合計レコード 1番目	請求書作成番号 合計レコード2 1番目	~	請求書作成番号 合計レコード2 N番目	請求書作成番号 合計レコード 1番目	請求書作成番号 合計レコード2 1番目	~	請求書作成番号 合計レコード2 N番目	~	請求書作成番号 合計レコード 1番目	請求書作成番号 合計レコード2 1番目	~	請求書作成番号 合計レコード2 N番目
請求書作成番号 1 番目			請求書作成番号 2 番目				請求書作成番号 N 番目					

●会社合計ファイル

--

4. レコード構成

(1) 管理レコード

会社コード	データ種類	年月群	媒体通番	網種別	媒体識別	請求回数	詳細群
5	2	7	2	8	3	1	1

(2) 電話番号別内訳レコード

局番	電話番号	定期分割区分	データ種類	レコードNO	レコード数	ご請求番号	予備	部課別コード	予備	減算不能区分	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	ご利用期間ダイヤル通話料等初日	ご利用期間ダイヤル通話料等末日
6	4	1	2	2	2	10	1	6	1	8	4	4	4	4

検針日前回	検針日今回	予備	予備	予備	予備	予備	ご請求額金額
4	4	10	10	10	10	10	10

請求内訳 1										請求内訳 2 請求内訳 15	請求内訳 16※								年月群		
利用会社 1	内訳コード 1	並替コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲再々掲表示 1	日割表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1		利用会社 16	内訳コード 16	並替コード 16	請求内訳コード 16	請求内訳名 16	再掲再々掲表示 16	日割表示 16	内訳金額 16		残回数 16	税区分 16
30	3	1	4	36	6	4	10	3	30	1778	30	3	1	4	36	6	4	10	3	30	7

※請求内訳は、1レコード最大16内訳まで収容します。同一回線番号で17内訳以上の請求内訳がある場合、17内訳目以降は、第2レコード以降に収容します。

(3) 電話番号別内訳レコード2

局番	電話番号	定期分割区分	データ種類	レコードNO	レコード数	ご請求番号	予備	部課別コード	予備	減算不能区分	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	ご利用期間ダイヤル通話料等初日	ご利用期間ダイヤル通話料等末日	検針日前回	検針日今回
6	4	1	2	2	2	10	1	6	1	8	4	4	4	4	4	4

予備	予備	予備	予備	予備	ご請求額金額	請求内訳1									
						利用会社1	内訳コード1	並替コード1	請求内訳コード1	請求内訳名1	再掲再々掲表示1	日割表示1	内訳金額1	残回数1	税区分1
10	10	10	10	10	10	30	3	1	4	36	6	4	10	3	30

請求内訳15	請求内訳16※										年月群
	利用会社16	内訳コード16	並替コード16	請求内訳コード16	請求内訳名16	再掲再々掲表示16	日割表示16	内訳金額16	残回数16	税区分16	
1778	30	3	1	4	36	6	4	10	3	30	7

※同一回線番号で、請求内訳が33内訳以上ある場合、第3レコード以降に収容します。第3レコード以降のレコードフォーマットおよびレコード内容については、第2レコードと同一となります。

(4) 請求書作成番号合計レコード

ご請求番号	予備	データ種類	レコードNO	レコード数	部課別コード	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	ご利用期間ダイヤル通話料等初日	ご利用期間ダイヤル通話料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	予備	予備	予備
10	1	2	2	2	6	4	4	4	4	4	4	10	10	10	10

予備	請求金額合計	請求件数	金融機関コード	口座番号	口座名義	送付先氏名	請求内訳 1									
							利用会社 1	内訳コード 1	並替コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲再々掲表示 1	日割表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1
10	10	8	7	8	40	40	30	3	1	4	36	6	4	10	3	30

請求内訳 1 5	請求内訳 1 6											年月群
	利用会社 1 6	内訳コード 1 6	並替コード 1 6	請求内訳コード 1 6	請求内訳名 1 6	再掲再々掲表示 1 6	日割表示 1 6	内訳金額 1 6	残回数 1 6	税区分 1 6		
1778	30	3	1	4	36	6	4	10	3	30	7	

(5) 請求書作成番号合計レコード2

ご請求番号	予備	データ種類	レコードNO	レコード数	部課別コード	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	ご利用期間ダイヤル通話料等初日	ご利用期間ダイヤル通話料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	予備	予備	予備
10	1	2	2	2	6	4	4	4	4	4	4	10	10	10	10

予備	請求金額合計	請求件数	金融機関コード	口座番号	口座名義	送付先氏名	請求内訳1									
							利用会社1	内訳コード1	並替コード1	請求内訳コード1	請求内訳名1	再掲再々掲表示1	日割表示1	内訳金額1	残回数1	税区分1
10	10	8	7	8	40	40	30	3	1	4	36	6	4	10	3	30

請求内訳15	請求内訳25	請求内訳16※									年月群	
		利用会社16	内訳コード16	並替コード16	請求内訳コード16	請求内訳名16	再掲再々掲表示16	日割表示16	内訳金額16	残回数16		税区分16
1778		30	3	1	4	36	6	4	10	3	30	7

※同一請求番号で、請求内訳数が17内訳以上ある場合、第3レコード以降に収容します。第3レコード以降のレコードフォーマットおよびレコード内容については、第2レコードと同一となります。

(6) 会社合計レコード

会社コード	データ種類	会社合計請求額	会社合計請求件数	年月群
5	2	12	8	7

5. レコード内容

(1) 管理レコード

項番	項目名	区分	桁数	内容
1	会社コード	文字	5	弊社がお客さま単位に設定した番号 例：“30009”
2	データ種類	文字	2	“01”を設定
3	年月群	文字	7	処理年月群を設定 年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2000年6月C群の場合→“2000063” (コード表「項番5、料金群・詳細群」参照)
4	媒体通番	文字	2	“01”を設定
5	網種別	文字	8	“電話”を設定
6	媒体識別	文字	3	出力媒体を設定 FD … “FD” MO … “MO” CD-R … “CDR” ビリングステーション(注1)をご契約の場合…“BS”
7	請求回数	文字	1	同一請求番号で、同一期別内に請求書を発行した回数 (料金群変更時等) * 再発行は対象外 * 回数は0から起算
8	詳細群	文字	1	詳細群を“A”～“V”、“0”～“9”で設定 (コード表「項番5、料金群・詳細群」参照)

(注1)：ビリングステーションとは、電話等サービスの「料金・通話明細データ」を専用Webサーバーからダウンロードできるオンラインサービスです。

(2) 電話番号別内訳レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	局 番	文字	6	電話番号の市外+市内局番を設定 例：03-5353-3636 → "035353" 11桁電話番号の場合、先頭"0"を除いた局番を設定 例：050-1234-5678 → "501234"
2	電 話 番 号	文字	4	電話番号を設定 例：03-5353-3636 → "3636"
3	定 期 分 割 区 分	文字	1	"0"を設定
4	デ ー タ 種 類	文字	2	"11"を設定
5	レ コ ー ド N O	文字	2	同一電話番号内でのレコードNoを設定
6	レ コ ー ド 数	文字	2	同一電話番号内でのレコード数を設定
7	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例："0001234567"
8	予 備	文字	1	
9	部 課 別 コ ー ド	文字	6	お客様がご契約番号単位に設定した部課別コード 設定ありの場合："000001"～"999999"を設定 設定なしの場合："000000"を設定
10	予 備	文字	1	
11	減 算 不 能 区 分	文字	8	"通常"または"減算不能" (コード表「項番1、減算不能区分コード」参照)
12	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 初 日	文字	4	利用期間の初日(開始)および末日(締切)を設定 例：初日 10月 1日 → "1001" 末日 10月 31日 → "1031"
13	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 末 日	文字	4	
14	ご 利 用 期 間 ダイヤル通話料等初日	文字	4	
15	ご 利 用 期 間 ダイヤル通話料等末日	文字	4	
16	検 針 日 前 回	文字	4	オールゼロを設定
17	検 針 日 今 回	文字	4	
18	予 備	数字	10	
19	予 備	数字	10	
20	予 備	数字	10	
21	予 備	数字	10	
22	予 備	数字	10	
23	ご 請 求 額 金 額	数字	10	該当電話番号の請求金額を設定 例： 5, 250円(プラス金額)の場合 →5250 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1, 000円(マイナス金額)の場合 →-1000

次項へ続く

(2) 電話番号別内訳レコードの続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
24	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	並 替 コ ー ド 1	文字	1	並替コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照) 例：“ダイヤル通話料”等
	再 掲 再 々 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	日 割 表 示 1	文字	4	“月額”または“日額”
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を出力 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1,000円(マイナス金額)の場合 →-1000
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	30	消費税区分を設定 (コード表「項番4、税区分コード」参照) 例：“合算”、“個別”等
25	請求内訳2～15			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大16内訳までを本レコードに編集し、16内訳を超える場合は「(3) 電話番号別内訳レコード2」に編集)
26	利 用 会 社 16	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 16	文字	3	
	並 替 コ ー ド 16	文字	1	
	請 求 内 訳 コ ー ド 16	文字	4	
	請 求 内 訳 名 16	文字	36	
	再 掲 再 々 掲 表 示 16	文字	6	
	日 割 表 示 16	文字	4	
	内 訳 金 額 16	数字	10	
	残 回 数 16	文字	3	
	税 区 分 16	文字	30	
27	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(3) 電話番号別内訳レコード2

項番	項目名	区分	桁数	内容
1	局 番	文字	6	電話番号の市外+市内局番を設定 例：03-5353-3636 → "035353" 11桁電話番号の場合、先頭"0"を除いた局番を設定 例：050-1234-5678 → "501234"
2	電 話 番 号	文字	4	電話番号を設定 例：03-5353-3636 → "3636"
3	定 期 分 割 区 分	文字	1	"0"を設定
4	デ ー タ 種 類	文字	2	"11"を設定
5	レ コ ー ド N O	文字	2	同一電話番号内でのレコードNoを設定 例："02"~"99"
6	レ コ ー ド 数	文字	2	同一電話番号でのレコード数を設定
7	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード
8	予 備	文字	1	
9	部 課 別 コ ー ド	文字	6	お客様がご契約番号単位に設定した部課別コード 設定ありの場合："000001"~"999999"を設定 設定なしの場合："000000"を設定
10	予 備	文字	1	
11	減 算 不 能 区 分	文字	8	スペースを設定
12	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 初 日	文字	4	スペースを設定
13	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 末 日	文字	4	スペースを設定
14	ご 利 用 期 間 ダイヤル通話料等初日	文字	4	スペースを設定
15	ご 利 用 期 間 ダイヤル通話料等末日	文字	4	スペースを設定
16	検 針 日 前 回	文字	4	スペースを設定
17	検 針 日 今 回	文字	4	スペースを設定
18	予 備	数字	10	
19	予 備	数字	10	
20	予 備	数字	10	
21	予 備	数字	10	
22	予 備	数字	10	
23	ご 請 求 額 金 額	数字	10	ゼロを設定

次項へ続く

(3) 電話番号別内訳レコード2の続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
24	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	並 替 コ ー ド 1	文字	1	並替コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照) 例：“ダイヤル通話料”等
	再 掲 再 々 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	日 割 表 示 1	文字	4	“月額”または“日額”
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を出力 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1, 000円(マイナス金額)の場合 →-1000
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	30	消費税区分を設定 (コード表「項番4、税区分コード」参照) 例：“合算”、“個別”等
25	請求内訳2～15			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大16内訳までを本レコードに編集し、16内訳を超える場合は、「(3) 電話番号別内訳レコード2」[第3レコード(レコードNO“3”)以降]に編集)
26	利 用 会 社 16	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 16	文字	3	
	並 替 コ ー ド 16	文字	1	
	請 求 内 訳 コ ー ド 16	文字	4	
	請 求 内 訳 名 16	文字	36	
	再 掲 再 々 掲 表 示 16	文字	6	
	日 割 表 示 16	文字	4	
	内 訳 金 額 16	数字	10	
	残 回 数 16	文字	3	
税 区 分 16	文字	30		
27	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(4) 請求書作成番号合計レコード

項番	項目名	区分	桁数	内容
1	ご請求番号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0001234567”
2	予備	文字	1	
3	データ種類	文字	2	“51”を設定
4	レコードNO	文字	2	同一ご請求番号のレコードNOを設定
5	レコード数	文字	2	同一ご請求番号でのレコード数を設定
6	部課別コード	文字	6	オールゼロを設定
7	ご利用期間 基本料等初日	文字	4	利用期間の初日(開始)および末日(締切)を設定 例：初日 10月 1日 → “1001” 末日 10月31日 → “1031”
8	ご利用期間 基本料等末日	文字	4	
9	ご利用期間 ダイヤル通話料等初日	文字	4	
10	ご利用期間 ダイヤル通話料等末日	文字	4	
11	検針日前回	文字	4	オールゼロを設定
12	検針日今回	文字	4	
13	予備	数字	10	
14	予備	数字	10	
15	予備	数字	10	
16	予備	数字	10	
17	予備	数字	10	
18	請求金額合計	数字	10	請求書作成単位の請求金額を設定 例：100,000円の場合 → 100000
19	請求件数	数字	8	請求書作成単位の電話番号数を設定 例：100回線の場合 → 100
20	金融機関コード	文字	7	口座振替の場合、金融機関コードを設定 口座振替以外は、スペースを設定
21	口座番号	文字	8	口座振替の場合、口座番号を設定 口座振替以外は、スペースを設定
22	口座名義	文字	40	口座振替の場合、半角カナ左詰めの口座名義を設定 口座振替以外は、スペースを設定
23	送付先氏名	文字	40	請求書送付先氏名を半角カナ左詰めで出力

次項へ続く

(4) 請求書作成番号合計レコードの続き

項番	項目名	区分	桁数	内容
24	利 用 会 社 1	文字	30	スペースを設定
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	
	並 替 コ ー ド 1	文字	1	
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	
	再 掲 再 々 掲 表 示 1	文字	6	
	日 割 表 示 1	文字	4	
	内 訳 金 額 1	数字	10	ゼロを設定
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	30	
25	請求内訳2~15			
26	利 用 会 社 16	文字	30	スペースを設定
	内 訳 コ ー ド 16	文字	3	
	並 替 コ ー ド 16	文字	1	
	請 求 内 訳 コ ー ド 16	文字	4	
	請 求 内 訳 名 16	文字	36	
	再 掲 再 々 掲 表 示 16	文字	6	
	日 割 表 示 16	文字	4	
	内 訳 金 額 16	数字	10	ゼロを設定
	残 回 数 16	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 16	文字	30	
27	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01~12、群は1~6 例：2001年8月C群 → "2001083"

(5) 請求書作成番号合計レコード2

項番	項目名	区分	桁数	内容
1	ご請求番号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード
2	予備	文字	1	
3	データ種類	文字	2	"51"を設定
4	レコードNo	文字	2	同一ご請求番号でのレコードNoを設定 例："02"~"99"
5	レコード数	文字	2	同一ご請求番号でのレコード数を設定
6	部課別コード	文字	6	オールゼロを設定
7	ご利用期間 基本料等初日	文字	4	スペースを設定
8	ご利用期間 基本料等末日	文字	4	
9	ご利用期間 ダイヤル通話料等初日	文字	4	
10	ご利用期間 ダイヤル通話料等末日	文字	4	
11	検針日前回	文字	4	
12	検針日今回	文字	4	
13	予備	数字	10	
14	予備	数字	10	
15	予備	数字	10	
16	予備	数字	10	
17	予備	数字	10	
18	請求金額合計	数字	10	ゼロを設定
19	請求件数	数字	8	
20	金融機関コード	文字	7	スペースを設定
21	口座番号	文字	8	
22	口座名義	文字	40	
23	送付先氏名	文字	40	

次項へ続く

(5) 請求書作成番号合計レコード2の続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
24	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	並 替 コ ー ド 1	文字	1	並替コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照) 例：“ダイヤル通話料”等
	再 掲 再 々 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	日 割 表 示 1	文字	4	“月額”または“日額”
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を出力 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1, 000円(マイナス金額)の場合 →-1000
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	30	消費税区分を設定 (コード表「項番4、税区分コード」参照) 例：“合算”、“個別”等
25	請求内訳2～15			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大16内訳までを本レコードに編集し、16内訳を超える場合は、「(5) 請求書作成番号合計レコード2」[第3レコード(レコードNO“3”)以降]に編集)
26	利 用 会 社 16	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 16	文字	3	
	並 替 コ ー ド 16	文字	1	
	請 求 内 訳 コ ー ド 16	文字	4	
	請 求 内 訳 名 16	文字	36	
	再 掲 再 々 掲 表 示 16	文字	6	
	日 割 表 示 16	文字	4	
	内 訳 金 額 16	数字	10	
	残 回 数 16	文字	3	
	税 区 分 16	文字	30	
27	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(6) 会社合計レコード

項番	項目名	区分	桁数	内容
1	会社コード	文字	5	お客様を識別するコードを設定
2	データ種類	文字	2	“91”を設定
3	会社合計請求額	数字	12	会社コード単位の請求金額合計を設定 例：1000000円の場合→1000000
4	会社合計請求件数	数字	8	会社コード単位の電話番号数合計を設定 例：100回線の場合→100
5	年月群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”